

【面接再現】

(コンコン)

うっすらと「どうぞ」らしき声が聞こえる。
幻聴かと思うほど。
どうすべきか迷ったが、入る。

私：(にこっ) 失礼します！！
受験番号●●番〇〇と申します。
本日はどうぞ宜しくお願い致します。(にこっ)

B：どうぞおかけください。

私：はい！(にこっ)

B：なんか、すごい緊張してるね～(笑)

私：あ、はい、大変緊張しております。(作り笑いにみえたか？！)

B：そんな難しいこと聞かないからね。
練習いっぱいしてきたでしょうから、成果を見せて下さい。

私：お気づかい、有難うございます。

B：では、まず自己PRをお願いしたいんですけど、
準備ができたなら、はじめて頂きたいのですが…

私：はい、大丈夫です。宜しくお願いします。

B：わかりました。
では自己PRを1分でお願いします。

私：はい！
私は都職員として、
「活力あふれる東京」の実現に貢献したいと考えています。
そのために生かせる力が2つあります。

1つ目は課題解決力、
2つ目は意見調整力です。

1つ目の課題解決力は、
アルバイトで業務改善に取り組んだことから身につけました。

2つ目の、
多様な意見を調整する力は、
国際交流サークルにて、
『仲間と協力してイベントの企画』をする過程で身につけました。

このような力を生かし、
都民の声を取り入れながら、
より良い都政の実現に貢献したいと思います。
よろしくお願いします！（にこっ）

A：では、私の方から質問させていただきます。
今、せっかく活かせる能力を仰って頂きましたから、
その能力を発揮したエピソードがあれば教えてください。

私：面接カードの2にあります、
アルバイトで業務の改善をした時に発揮しました。

A：具体的には？

私：私は映像授業を提供している予備校で、
講義をしていらっしゃる先生に代わって
生徒さんから授業に関する質問に答えるというアルバイトをしているのですが、
ある時期に生徒さんの数が急激に増えまして、
質問の対応が追い付かなくなってしまいました。

A：（次に自分の行動を語ろうとしたら、遮られて）
どうやって解決したんですか？

私：まずはスタッフ間で問題意識の共有をし、
・改善策の提案と、
・その実行のための仕組みづくりを行い、
問題の解決に至りました。

A：その問題、〇〇さんしか気付かなかったの？

私：気付いていたと思うのですが、
改善したいと思っていたのは私だけでした。

A：『対応が追いつかなくなった』って、どういう状況？

私：私が働いている予備校は
『いつでも質問できること』を売りにしているにもかかわらず、
生徒さんが大勢、質問に押しかけてしまい、
すぐに対応することができず、
最悪の場合は、数日後にまた質問に来てもらう
といった状況が発生していました。

A：それは解決しなきゃいけないねー。
具体的に **どんな改善策** を提案したんですか？

私：いくつかあるのですが、
例えば『質問の対応時間を 10 分にしよう』と言いました。

A：10 分って、生徒の満足度は下がらないの？

私：首都圏で実績のある校舎がありまして、
そちらの校舎に話を伺ったところ、
対応時間が 10 分でも、
生徒さんの満足度を維持できていると聞いたので
私の校舎でもそうすることにしました。

A：実際やってみて、生徒さんからクレームは無かった？

私：はい、特にありませんでした。

A：なんか、いきなり時間が短くなって、
不満に思ってる子いそうだけどね？
気付かなかっただけじゃない？

私：(まずい…)

あ、自分自身で『質問対応の仕方を見直した』ことも、
生徒さんの満足度を維持できたと感じた理由です。(逃げ)

A：どう見直したの？

私：これまでは、生徒さんが『何がわからないのか』を明確にせず、
一方的に1から100まで説明してしまっており、
言ってしまうと無駄な説明が多かったのですが、
生徒さんの分からないところを明確にすることで、
短時間でも、満足度を下げずに対応することができたと思います。

A：あ、そういうことか。
無駄を省いた上で
時間を短くしたから、
満足度は下がってないってことね。

私：はい。(伝わったのかな?)

A：お話を聞いていて、
『明るくて前向きそう』なのが伝わってくるんですが、
あえて挫折経験をお聞きしたいのですが。

私：(評価されたのは嬉しいけど困った)
大学受験で、
第一志望の大学には受かったものの、
その中で、第一志望だった学部には不合格となってしまう、
行きたかった学部で学ぶ人を間近で見て、
「うらやましいなあ」という劣等感を感じていました。

A：それ、挫折？

私：転部することまで考えました。

A：でもそれって、我慢するしかなかったでしょ？

私：いえ、『今の環境で精一杯頑張ろう』と切り替え、
また『新たなチャレンジ精神を持つ』という姿勢で臨むことで、
自ら劣等感を克服しました。

現在では、新たに学びたい分野に出会えたので、
今の学部に入って良かったと思えるようになりました。

A：そういえば既卒ですか？

私：はい、3月に卒業しました。

A：卒業後はどうしてたんですか？

私：予備校のアルバイトを継続しながら、
公務員試験の勉強をしていました。

A：では志望動機にある、
東京の魅力を感じた経緯を教えてください。

私：サークルやボランティアを通して、
東京の様々な場所を訪問しました。
その中で、東京は、
一都市の中に、
自然から歴史まで、様々な魅力が詰まっている都市だということに気付き、
そこに魅力を感じました。
(※大都市なのに治安がいいとか、人が優しいとかも言うべきだった)

A：強いて言えば東京の一番の魅力って何？

私：多様性です。
(これは言いながら『ミスった』って感じた！
1つ前で治安とか触れてれば問題なかったのに…)

A : 1 番が多様性？ (笑)

私 : (あーーー！！ヤバい)

あ、一都市にいながら、
歴史から自然までいろんなものを楽しめるという意味です。
(こういう話じゃない。きっと…アニメとかを言わせたいんだ…)

A : じゃあ、海外に東京を発信する際に 1 番の武器となるのは？

私 : (ほらやっぱり)
強いていうならアニメです。

A : 外国人って、アニメに関心が深いのかな？

私 : 自分と仲が良かった留学生が、
日本人である自分以上に詳しくて驚いたほどです。

A : そしたら、わざわざ発信する必要なくない？

私 : (誘導にひっかかったか？…)
確かにアニメは今でも強く発信していますが、
そもそも東京に関心がない人に向けて、
東京を知ってもらうための良いきっかけにはなると思います。
(何言ってるんだ…)

A : あー、つまり、
現時点で東京に関心を待たない方に、
今後関心を持つ『きっかけ』を与えられるということですね？

私 : はい、まさにそのような認識です。

A : 最後に、あなたにとって働くってなんですか？

私 : 人の役に立つことです。
単純に『お金稼ぎ』といった面もあるとは思いますが、

私は、それ以上に、
『自分の仕事によって人の役に立ちたい』と思いますし、
それが仕事のやりがいにつながると思います。

A：じゃあ、都でも人のために頑張ってくれるんですね？

私：はい！！（超どや！！）

A：私からは以上です。

(面接官がCにバトンタッチ)

C：希望しない部署に配属されるのはどう？

私：私はむしろ様々な部署を経験できるのが
東京都で働く魅力の一つであると思うので、
その点は全く問題ありません。

C：関心ない分野に配属されたらどうするの？

私：まず、私は好奇心が旺盛で、
『何事にも前向きに取り組める』という性格があるので、
関心のない分野についても全力で取り組みます。

また、私の根底にある気持ちは
『東京の魅力を高めたい』というものであり、
この気持ちは、どこの分野に配属されても通じるものだと思うので、
これをモチベーションに頑張りたいです。

C：なんだかいろいろ活発に活動されるようですが、
これは苦手ってことはありますか？

私：(あせる)

んー、明らかに間違っていると思っている事を
強制的にやらされるのが苦手です。

C：それは『やりたくない事はやらない』ってこと？

私：(違う！それじゃあ、ただの自己中アピールじゃん！)

いえ、やりたくない事ではなく、
明らかに道義に反していることを
やらなければならない状況が苦手です。

C：なんかエピソードある？

差し支えない範囲で構わないので。